

# 日本語教育の立場から —国語教育と英語教育をつなぐ試み—

一橋大学国際教育交流センター教授 庵 功雄

[isaoiori@courante.plala.or.jp](mailto:isaoiori@courante.plala.or.jp)

<http://www12.plala.or.jp/isaoiori/>

# 1. はじめに

- ▶ 現在の国語教育は、少なくとも文法教育に関する限り、母語話者の母語能力を高めるという意味で十分に機能してはいない
- ▶ これまでは英語教育が実質的に日本語母語話者に対する言語分析能力を育てる場として機能してきたため、それほど深刻な問題とはなっていない
- ▶ しかし、英語教育の「脱文法化」が進むと、日本語母語話者が日本語を論理的に読むための基盤を得る場が学校教育の中から失われることが強く危惧される
- ▶ →本発表では、こうした問題意識から、国語教育と英語教育の間に「共通言語」を作るために、日本語教育のための文法が果たせる役割について考えたい

## 2. 「語」をめぐって

- ▶ 学校文法批判の「定番」
- ▶ 日本語学からの国語教育批判の代表例として、活用（形）に関するものがある
- ▶ 学校文法では（1）の「飲んで」は「「飲む」の連用形（撥音便） + 接続助詞「て」」と分析される
- ▶ （1）昨日、喫茶店でコーヒーを飲んで、タクシーで帰宅した。

## 2. 「語」をめぐって

### ▶ 「飲ん」が「連用形」なのはなぜ？

表1 文語文法と口語（現代語）文法

「飲む」（四段活用）（文語）

未然形	飲ま（ず、ば、む）
連用形	飲み（たり）
終止形	飲む（。）
連体形	飲む（N）
已然形	飲め（ば、ども）
命令形	飲め（。）

「飲む」（五段活用）（現代語）

未然形	飲ま（ない）	飲も（う）
連用形	飲み（ます）	飲ん（で）
終止形	飲む（。）	
連体形	飲む（N）	
假定形	飲め（ば）	
命令形	飲め（。）	

- ▶ 「飲み+たり」→「飲んだ」（撥音便）→「飲ん+で」（連用形&2語）
- ▶ →通時態（歴史）と共時態（現代）の混同
- ▶ →「飲んで、飲んだ」はともに1語と考えるべき（学校文法批判の「定番」）
- ▶ →「対案」がなく、議論の入口で思考停止になっている

## 2. 「語」をめぐって

- ▶ 「飲ん+で」は「「飲む」の連用形（撥音便）+接続助詞「て」」（2語）
- ▶ →「飲んで、飲んだ」はともに1語と考えるべき（学校文法批判の「定番」）
- ▶ →「対案」がなく、議論の入口で思考停止になっている
- ▶ この批判には問題がないか？
- ▶ 「飲んで」が1語なら、(2)の「飲んで+いる」は2語のはず
- ▶ (2) 太郎がコーヒーを飲んでいる。

## 2. 「語」をめぐって

- ▶ 「飲んで」が1語なら、「飲んで+いる」は2語のはず
- ▶ 「いる」が単独で使われたときには、主語は有情物でなければならない（**選択制限**）がある
- ▶ (3) 机の下に **猫が** {○いる / ×ある}。
- ▶ (4) 机の下に **ボールが** {×いる / ○ある}。
- ▶ 「～ている」の形になると、選択制限がなくなる
- ▶ (5) 机の下で **猫が** 寝ている。
- ▶ (6) 床に **ボールが** 転がっている (×転がってある)。
- ▶ → **文法化** (grammaticalization)
- ▶ 「ている」 : **補助動詞** (「いる」 : 本動詞)
- ▶ → 「ている」は統語的には1語
- ▶ → 「飲んでいる」 ≠ 「飲んで+いる」
- ▶ → 「飲ん+でいる」 ? 「飲んでいる」全体で1語 ?
- ▶ → 「飲んでいる」の場合、(7) のように「飲んで」と「いる」の間にとりたて助詞を挿入できるが、これは、「飲んでいる」が2語であることを示しているとも考えられる
- ▶ (7) 私は酒を飲んで **は**いるが、酔ってはいない。

## 2. 「語」をめぐって

- ▶ 「飲んで」が1語なら、「飲んで+いる」は2語のはず
- ▶ 「ている」：補助動詞（「いる」：本動詞）
- ▶ →「ている」は統語的には1語
- ▶ →「飲んでいる」≠「飲んで+いる」
- ▶ →「飲んでいる」は1語？2語？
- ▶ →「定番」の批判にも問題点がある
- ▶ →そのレベルで思考停止せずに、より実質的な問題を考えていくべき

### 3. 論理的に読むための文法

- ▶ 指定指示の「この」と「その」
- ▶ ここからは、これまでの学校文法批判を超えて、より実質的に、国語教育と英語教育をつなぐ試みとして、発表者の研究内容を2つ紹介する。
- ▶ 指定指示：(8) のように「この／その＋名詞（句）」全体で先行詞と照応する用法（英語では定冠詞、指示詞（the, this, that）に相当）
- ▶ 代行指示：(9) のように「こ／そ」の部分だけが先行詞と照応する（「この／その」が「これの／それの」の意味）用法（英語では所有代名詞（his, her, its, their）に相当）
- ▶ (8) 先日銀座で寿司を食べた。{この寿司／その寿司} はおいしかった。（指定指示）
- ▶ (9) 先日銀座で寿司を食べた。{この／その} 味はよかった。（代行指示）
- ▶ →指定指示の「この」と「その」にはかなり明確な使い分けがある（庵2007, 2019近刊a）

### 3. 論理的に読むための文法

- ▶ 「この」しか使えない場合

- ▶ 1) 言い換え

- ▶ (10) 私は紅茶が好きだ。{○この飲物 / ×その飲物} は疲れを癒やしてくれる。

- ▶ (11) 私はクリスマスにキリスト教の洗礼を受けたので、この祝日 ( / ×その祝日) には特別の思いがある。

- ▶ 2) ラベル貼り

- ▶ (12) 「天は人の上に人を造らず人の下に人を造らず。」 {○この言葉 / ×その言葉} は福沢諭吉のものである。

- ▶ (13) 夜、ある町の外科医のところへ大怪我をした男が治療を受けにきた。住所をきくと隣の町から来

- ▶ たという。「隣の町なら、有名な外科医がいるのに、どうしてわざわざここまで来たんです？」

- ▶ このジョーク ( / ×そのジョーク) のオチは読者に考えていただくと思う。

- ▶ → (14) 「この」はテキスト送信者 (話し手 / 書き手) が先行詞をテキストのトピックとの関連性という観点から捉えているのを示すマーカー

- ▶ → (15) 「この」は外延的な限定詞 (denotational demonstrative) (≠指示対象を問題とする)

### 3. 論理的に読むための文法

- ▶ 「その」しか使えない場合
- ▶ (16) 順子は「あなたなしでは生きられない」と言っていた。
- ▶ {○その/×この} 順子が今は他の男の子供を二人も産んでいる。
- ▶ (17) 読書会「少女は本を読んで大人になる」の再開に向けた打ち合わせで、ゲスト
- ▶ にミュージシャンをおよびしようとなった時、思わず「大貫妙子」と小さく呟
- ▶ (つぶや) いたのだが、まさかそれが実現するとは、正直思っていなかった。願
- ▶ いは口にしてみるものだ。
- ▶ その ( / × この ) 大貫さんが「茨木のり子」を取り上げたいとおっしゃった時
- ▶ は、さらに喜びが膨らんだ。茨木のり子もまた、私が大学生の頃に出会い、大好
- ▶ きになった詩人だったからだ。
- ▶ →先行詞は固有名詞で、主語の場合は「が」で受けるのが普通 (庵2007、2019近刊a)

### 3. 論理的に読むための文法

- ▶ 「その」しか使えない場合
- ▶ (16) (a) 順子は「あなたなしでは生きられない」と言っていた。
- ▶ (b) {○その / ×この / ×φ} 順子が今は他の男の子供を二人も産んでいる。
- ▶ (16b) の「順子」が「あなたなしでは生きられない」と言っていた順子でないと、(16a) とのつながり (結束性 *cohesion*) が悪くなる
- ▶ (16b) では「その」しか使えない
- ▶ → 「その」は □ の属性 (テキスト的意味) を受けている
- ▶ → (18) 「その」はテキスト送信者 (話し手 / 書き手) が先行詞をテキスト的意味の付与という観点から捉えているのを示すマーカー
- ▶ → (19) 「その」は内包的な限定詞 (connotational demonstrative) (≒属性を問題とする)

### 3. 論理的に読むための文法

- ▶ 「この」「その」と定冠詞
- ▶ 「この」と「その」のうち、英語などの「定冠詞」に当たるのはどちら？
- ▶ 定冠詞の使用条件：唯一性条件（小田2012）
- ▶ （20）聞き手が、ただ1つの関与的なNが曖昧性なく区別できるような局所的な談話領域
- ▶ または解釈領域を再構築することができるとき定名詞句を使用できる
- ▶ →「言い換え」の場合に「この」しか使えないことからわかるように、**指示対象の同定だけに使われるのは「この」**
- ▶ →**定冠詞により近い性質を持っているのは「この」**（庵2003、2019近刊a）

# 3. 論理的に読むための文法

- ▶ **日本語を論理的に読むための文法**
- ▶ 指定指示の「この」と「その」の問題は、日本語のテキストの**結束性 (cohesion)** を考える上で重要な意味を持っているが、**指示対象の決まり方を通して、日本語を論理的に読むための文法として考えることも可能**
- ▶ 同様に、「のだ、わけだ」やテンス・アスペクトなども**テキストの構造化**に関わる要素だが（益岡1991、工藤1995、庵2019近刊a）、それと同時に、**日本語を論理的に読むための文法**として考えることも今後の重要な研究課題

### 3. 論理的に読むための文法

#### ▶ 英語の「言い換え」

#### ▶ 「この」と「定冠詞」の近さ（英語の「言い換え」）

#### ▶ (21) Dear Reader,

▶ In case you hadn't noticed, **Britain** has been engulfed in yet another political crisis  
▶ this week. No surprises that it was about Brexit, the seemingly never-ending battle  
▶ over how **the country** will leave the European Union.

#### ▶ (22) 読者のみなさま

▶ まだご存知ではないかもしれませんが、**イギリス**は今週また新たな政治的に危機に巻  
▶ き込まれました。それがBrexitに関することだとしても全く驚くには当たりません。

▶ **この国** {×その国 / ×φ国} のEU離脱の方法をめぐる戦いは終わりが見えません。

▶ 英語のテキストには、日本語に比べてかなり高い頻度で「**言い換え**」が現れるが、それらは基本的  
▶ 的に「**この+名詞（句）**」で翻訳可能

▶ →こうしたところに、読解を通して国語教育と英語教育をつなぐ可能性もあるのでは？

## 4. 日本語と英語をつなぐための文法

- ▶ **日英語のテンス・アスペクト体系の比較** (庵2019近刊b、Iori 2018 in press)

表2 日本語のテンス・アスペクト体系 (1) (工藤 1995、庵 2012)

テ		アスペクト	
		完成相 (perfective)	未完成相 (imperfective)
ン	非過去	ル形 (- $\phi$ - (r)u)	テイル形 (- <b>tei</b> - <b>ru</b> )
ス	過去	タ形 (- $\phi$ - <b>ta</b> )	テイタ形 (- <b>tei</b> - <b>ta</b> )

- ▶ **アスペクト** : - $\phi$ - vs. -テイ-
- ▶ **テンス** : -ル vs. -タ

## 4. 日本語と英語をつなぐための文法

▶ 日英語のテンス・アスペクト体系の比較 (庵2019近刊b、lori 2018 in press)

▶ 基本用法：進行中、結果残存 (□は観察時を表す)

- ▶ (23) 雨が降っている□。 (進行中・現在)
- ▶ (24) さっき会社を出たとき、雨が降っていた□。 (進行中・過去)
- ▶ (25) 会社を出るときには、雨が降っている□だろう。 (進行中・未来)
- ▶ (26) 窓が開いている□。 (結果残存・現在)
- ▶ (27) さっき部屋に入ったとき、窓が開いていた□。 (結果残存・過去)
- ▶ (24) さっき会社を出たとき、雨が降っていた□。 (進行中・過去)

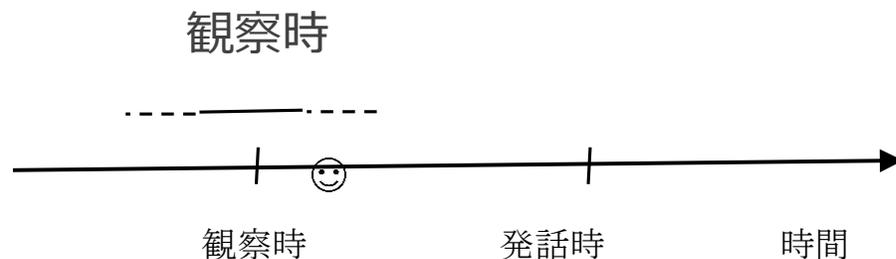


図1 過去の進行中

## 4. 日本語と英語をつなぐための文法

- ▶ **日英語のテンス・アスペクト体系の比較** (庵2019近刊b、Iori 2018 in press)
- ▶ **派生用法**: 経験・記録 (パーフェクト)、完了、反事実
- ▶ 1) 経験・記録 (パーフェクト)
- ▶ この用法では、過去の出来事であるにもかかわらず、テイル形が使われる
- ▶ (28) 夏目漱石は1867年に生まれている。(○生まれた)
- ▶ (29) 彼は高校時代カナダで暮らしている。だから、英語がうまい。(○暮らした)
- ▶ (30) (聞き込みに行った刑事が帰ってから上司に報告する場合)
- ▶ 犯人は3日前にその店で食事をしています。(×食事をしました)

## 4. 日本語と英語をつなぐための文法

▶ 日英語のテンス・アスペクト体系の比較 (庵2019近刊b、Iori 2018 in press)

▶ 派生用法：経験・記録（パーフェクト）、完了、反事実

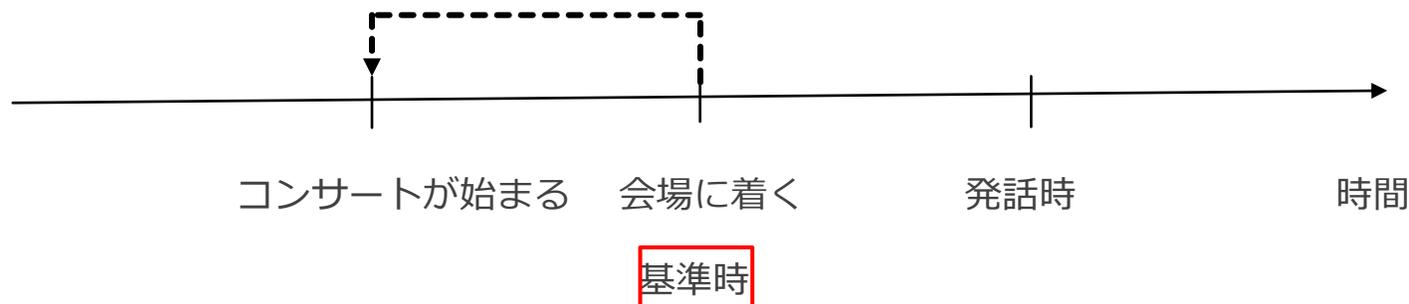
▶ 2) 完了

▶ この用法では、□で囲んだ「-る、-た」は基準時を表している。

▶ (31) 会場に着いたとき、コンサートは始まっているるだろう。 (未来完了)

▶ (32) コンサートは今、始まった。 (現在完了)

▶ (33) 会場に着いたとき、コンサートは始まっていた。 (過去完了)



## 4. 日本語と英語をつなぐための文法

- ▶ **日英語のテンス・アスペクト体系の比較** (庵2019近刊b、lori 2018 in press)
- ▶ **派生用法**：経験・記録（パーフェクト）、完了、反事実
- ▶ 3) 反事実
- ▶ この用法の場合、**日本語では「～ば」（バ節）「～たら」（タラ節）が必須だが、英語ではIf節がなくても反事実の解釈が可能** (lori 2014)。これは、**英語には法助動詞 (modal auxiliary) があるのに対し、現代日本語にはそれがないため**
- ▶ (34) 今お金があっ**たら**、あのカメラを買っ**ている**。 (反事実現在)  
(私は) あのカメラを買っている。 (反事実の解釈不可)  
I **would** buy that camera (**if** I had enough money).
- ▶ (35) あのときお金があっ**たら**、あのカメラを買っ**ていた**。 (反事実過去)  
(私は) あのカメラを買っていた。 (反事実の解釈不可)  
I **would have** bought that camera (**if** I had had enough money).

## 4. 日本語と英語をつなぐための文法

表3 日本語のテンス・アスペクト体系 (2) (基本用法)

	完成相	未完成相			-ル/タ
		対立なし	進行中	結果残存	
	非状態動詞	状態動詞	非変化動詞	変化動詞	
未来	ル形	ル形	テイル形	テイル形	観察時
現在	×	ル形	テイル形	テイル形	
過去	タ形	タ形	テイタ形	テイタ形	

表4 英語のテンス・アスペクト体系 (1)

	完成相	未完成相		
			進行中	結果残存
	非状態動詞	状態動詞	非変化動詞	変化動詞
未来	will+原形	will+原形	will be+現分	will be+過分
現在	×	現在形	is +現分	is +過分
過去	過去形	過去形	was +現分	was +過分

## 4. 日本語と英語をつなぐための文法

- ▶ 日英語のテンス・アスペクト体系の比較（庵2019近刊b、Iori 2018 in press）
- ▶ 基本用法の進行中の場合、次のように、日英語は形態素レベルで1対1対応をする。
- ▶ (36) 家を出るとき、雨が降っていた。（「降る」は「非変化動詞」）
- ▶ (37) It was raining when I left home.
- ▶ ただし、結果残存の場合は、ズレが大きい（(39) のbrokenは動詞（の変化形）と言うより、形容詞と認識されているのでは）
- ▶ (38) コップが割れている。（「割れる」は「変化動詞」）
- ▶ (39) The glass is broken.

## 4. 日本語と英語をつなぐための文法

表5 日本語のテンス・アスペクト体系 (3) (派生用法)

	経験・記録 (パーフェクト)	完了	反事実	-ル/タ
未来	×	ているだろう	×	基準時
現在	ている	た	～ば、ている	
過去	×	ていた	～ば、ていた	

表6 英語のテンス・アスペクト体系 (2)

	パーフェクト	完了	反事実
未来	×	will have + 過分	×
現在	have + 過分	have + 過分	would + 原形
過去	×	had + 過分	would have + 過分

## 4. 日本語と英語をつなぐための文法

- ▶ 日英語のテンス・アスペクト体系の比較（庵2019近刊b、Iori 2018 in press）
- ▶ 完了の場合、少なくとも、未来完了と過去完了では日英語はきれいに対応する
- ▶ (40) 私は今週の金曜日までにこの課を勉強しているだろう。
- ▶ (41) I will have studied this lesson by this Friday.
- ▶ (42) 私が病院に着く前に彼は亡くなっていた。
- ▶ (43) He had passed away before I arrived at the hospital.
- ▶ 日英語のテンス・アスペクト体系は、形態素レベルでかなりきれいに対応する。こうした観点は日本語教育においても重要だが、日本語と英語の関係を可視化するという点で、国語教育と英語教育をつなぐという観点からも有効なのではないだろうか

## 5. まとめ

- ▶ 本発表では、国語教育と英語教育をつなぐという問題について、日本語教育のための文法という観点から考えてきた
- ▶ 1. これまでの日本語学（言語学）からの学校文法批判を超えて、より実質的な議論に入ることの必要性を主張した
- ▶ 2. テキストの結束性の観点から指定指示用法の「この」と「その」を取り上げ、両者の使い分けが日本語母語話者が日本語の文章を論理的に読む訓練の材料になり得ることを論じた。さらに、そうした観点は英語を読む場合にも応用可能であることを示唆した
- ▶ 3. 日本語と英語の近さを示す例として、テンス・アスペクト体系の比較を取り上げ、こうした観点から国語教育と英語教育を文法的に結びつけることの可能性を提案した
- ▶ <追加>
- ▶ イ形容詞とナ形容詞（vs. 形容詞と形容動詞）（日本語教育、日本語学の標準的用語）
- ▶ ・本を**面白く**読んだ。（＝「本が面白い」：「面白く」は「（イ）形容詞の連用形」）
- ▶ ・本を**速く**読んだ。（≠「本が速い」：「速く」は「副詞」）（cf. 永谷2017）
- ▶ 永谷直子（2017）「現代日本語における形容詞の連用用法—外面性／内面性に着目して—」
- ▶ 2017年度一橋大学言語社会研究科博士論文

## 参考文献（主なもの）

- ▶ 庵 功雄（2003）「見えない冠詞」『月刊言語』32-10
- ▶ 庵 功雄（2007）『日本語研究叢書21 日本語におけるテキストの結束性の研究』くろしお出版
- ▶ 庵 功雄（2012）『新しい日本語学入門（第2版）』スリーエーネットワーク
- ▶ 庵 功雄（2017）『一歩進んだ日本語文法の教え方1』くろしお出版
- ▶ 庵 功雄（2018）『一歩進んだ日本語文法の教え方2』くろしお出版
- ▶ 庵 功雄（2019近刊a）『日本語指示表現の文脈指示用法の研究』ひつじ書房
- ▶ 庵 功雄（2019近刊b）「意味領域から考える日本語のテンス・アスペクト体系の記述」『言語文化』55、一橋大学
- ▶ 庵 功雄・清水佳子（2016）『上級日本語文法演習 時間を表す表現（改訂版）』スリーエーネットワーク
- ▶ 小田 涼（2012）『認知と指示』京都大学学術出版会
- ▶ 工藤真由美（1995）『アスペクト・テンス体系とテキスト』ひつじ書房
- ▶ 寺村秀夫（1984）『日本語のシンタクスと意味Ⅱ』くろしお出版
- ▶ 仁田義雄（1997）『日本語文法研究序説』くろしお出版
- ▶ Iori, Isao (2014) “Notes on the Subjunctive Mood in Modern Japanese”, *Hitotsubashi Journal of Arts and Sciences*. 55-1, 一橋大学
- ▶ Iori, Isao (2018 in press) “A Comparative Study of the Tense-Aspect System between Japanese and English: As a Basis of “Pedagogic Grammar of Japanese Using Learners’ Knowledge of their Mother Tongue”, *Hitotsubashi Journal of Arts and Sciences*. 59-1, 一橋大学

ご清聴ありがとうございました